

第2章 秋田県のすがた

第1節 自然特性

1 位置・地形

本県は、東北地方の北西部に位置し、総面積約 11,638 k m²、全国第6位の広さを有しています。

県土には米代川、雄物川、子吉川の三大河川をはじめ 352 の河川が走り、各地に水の恵みを与えています。

田沢湖は全国一の水深を誇り、十和田湖は2重のカルデラ湖として有名です。また、八郎湖は、国営八郎潟干拓事業により残存した淡水湖です。

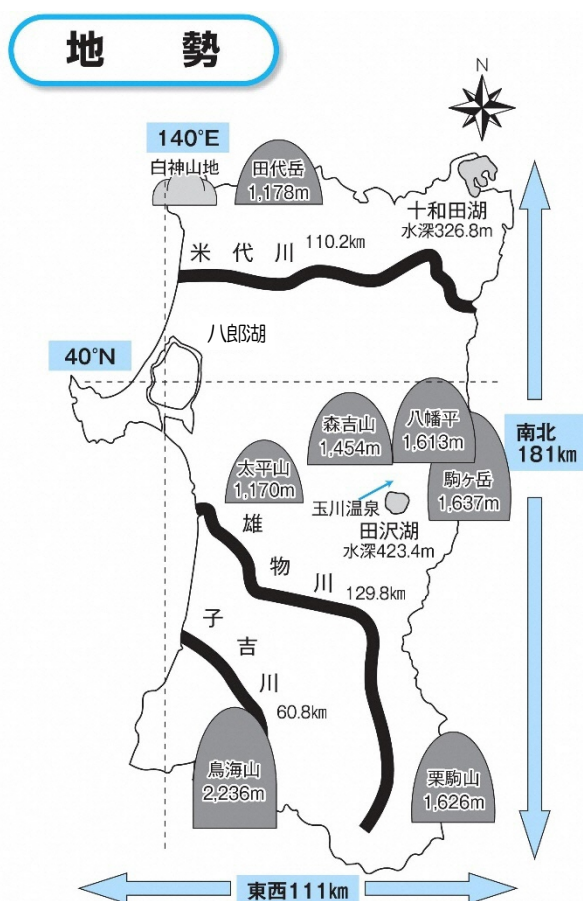
沿岸部の中央には寒風山などの火山を擁する男鹿半島が雄大な造形美を誇り、その南北は長大な海浜が緩やかな海岸線を形成しています。

青森、秋田両県にまたがる白神山地は、広大な原生的ブナ林を擁し、世界遺産*に登録されています。

2 気候・気象

本県の大部分は、日本海型の冷温帯気候に属し、全域が積雪寒冷地域及び豪雪地帯に指定されている日本有数の多雪地帯となっています。特に、森吉山周辺及び平鹿・雄勝地方が降雪の多い地域として知られており、地形等の影響で県北部の積雪量が少なく、県南部で多くなっています。

また、沿岸部と内陸部で気候の顕著な違いが見られます。対馬暖流の影響を強く受ける八森海岸（八峰町）、男鹿半島、由利本荘地域は冬季でも比較的温暖ですが、内陸部では奥羽山脈沿いほど気温が低く寒暖差が大きいのが特徴です。本県の年平均気温は 11℃、年平均降水量は 1,800mm前後で、山沿いでは平地より雨量が多く、特に白神山地、森吉山、鳥海山、丁岳山地などが降水量の多い地域となっています。



資料：あきた県概況 2020

3 環境特性

本県は、山岳地等の変化に富んだ地形や湿潤な気候風土を有する豊かな自然環境に恵まれています。

青森、秋田の県境にまたがる白神山地は、1993年（平成5年）に世界遺産に登録され、そのブナ林は純度の高さや優れた原生状態が保存され、動植物の多様性がみられる世界的にも特異な森林となっています。

秋田県の東部県境には奥羽山脈と那須火山脈が縦走し、八幡平、駒ヶ岳、栗駒山の諸火山と、田沢湖、十和田湖の両カルデラ湖が形成されています。この西側、日本海岸に沿って出羽山地があり、その上を鳥海火山脈が重走し、主峰鳥海山の山容は出羽富士と呼ばれ、美しい裾をひいています。また鳥海山を源とする湧水は、多様な動植物の生態系の基盤を形成しているほか、サケが遡上する河川や森林の栄養を豊富に含んだ湧水は海でとれる岩ガキなど地域の漁業を支えています。

森林は県土の70%を占めており、そのうち50%が針葉樹林を中心とした人工林で、その大半がスギ人工林となっています。

河川は、県北に米代川、中央に雄物川があり、ともに源を奥羽山脈に発して西に流れ、出羽山地を横断して日本海に注いでいます。途中多くの支流を合せて、米代川は鹿角盆地、大館盆地と能代平野を開き、雄物川は横手盆地、秋田平野を開き、県南の鳥海山に発する子吉川はその下流に本荘平野を開いています。

また、各河川の肥沃な盆地や平野部には、多くの都市が発展しています。

湖沼は、三大湖沼である十和田湖、田沢湖、八郎湖のほか、大小さまざまな沼やため池があります。平鹿・仙北地域等の扇状地に多く分布する湧水地帯には、希少なトミヨ属雄物型*や水生植物が生息・生育する貴重な生態系が形成されています。

本県の西側は日本海に面しており、沿岸には暖流の対馬海流が北上しているため、緯度のわりには温暖な気候となっています。そのため、南方系の生物が由利地域や男鹿半島、岩館海岸に線状に分布しています。

日本海に突出している男鹿半島西側一帯及び北部の岩館海岸、南部の象潟海岸には自然性の高い岩礁海岸が発達し、海岸岩礁性の様々な生物群が分布しています。

県内の海岸線にはサンゴ礁や干潟は存在しませんが、男鹿、八森、象潟の岩礁海岸の地先には様々なタイプの藻場*が分布し、特にホンダワラ類を主体とするガラモ場はハタハタの産卵場として不可欠な存在となっています。

第2節 社会特性

1 人口

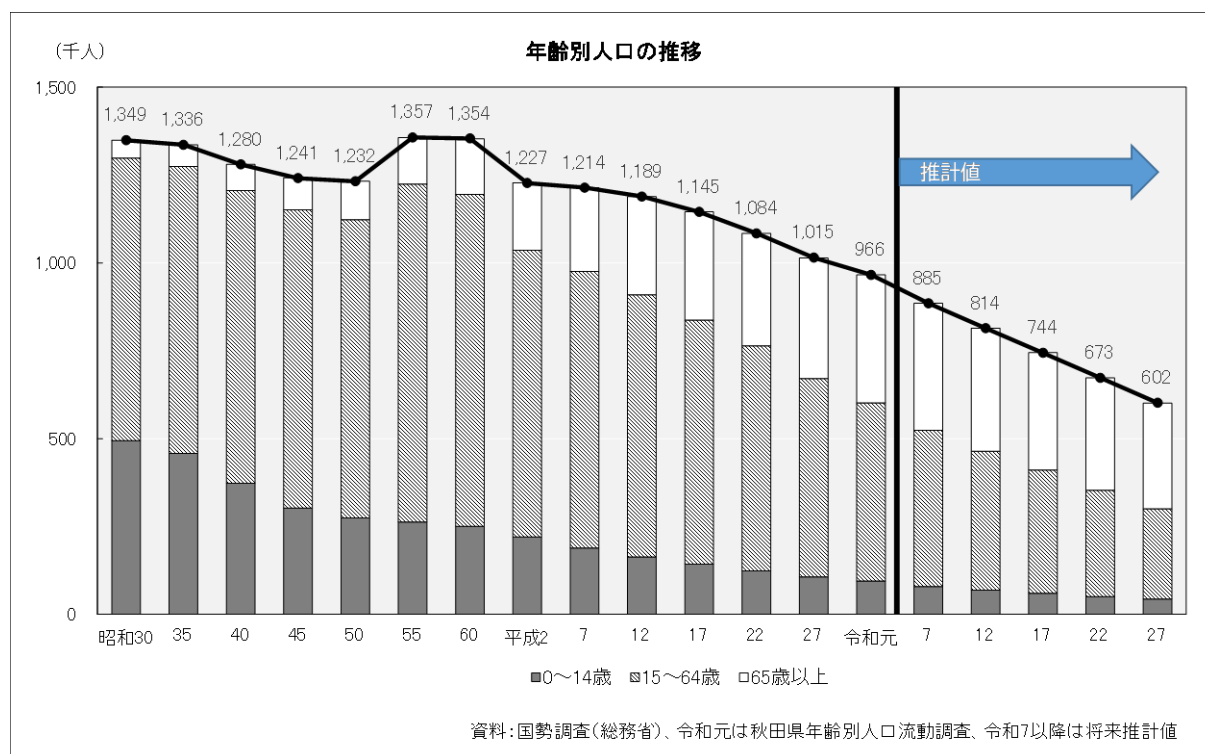
2019年（令和元年）10月現在での秋田県の人口は96.6万人となっており、1956年（昭和31年）の135万人をピークに減少に転じ、2017年（平成29年）には100万人を割り込みました。出生数の減少と高齢化に伴う死亡数の増加による自然減が年々増加していることに加え、進学や就職などによる県外への転出者数が県内への転入者数を上回る社会減が続いている状況で、本県の人口は減少に歯止めがかからない状況にあります。

また、総人口を年齢3区分別の割合でみると、0～14歳の年少人口は9.8%、15～64歳の生産年齢人口は52.5%、65歳以上の老年人口は37.7%となっており、生産年齢人口が減少し、高齢化が進行する状況で、将来的な労働力不足が生じるおそれが懸念されます。

「日本の地域別将来推計人口（2018（平成30）年推計）—2015（平成27）～2045（令和27）年—」（平成30年 国立社会保障・人口問題研究所）によると、2045年（令和27年）の本県の総人口は60.2万人と現在よりも約36万人減少すると推計されています。この減少率は全国で最も大きいものとなっています。

2045年（令和27年）の総人口を年齢3区分別の割合でみると、0～14歳の年少人口は7.4%、15～64歳の生産年齢人口は42.5%となり、これは全国で最も少ない割合となっています。一方、65歳以上の老年人口は50.1%と全国で最も高い割合となっています。このうち、75歳以上の人口が31.9%を占め、これも全国で最も高い割合となっています。

本県の人口は、全国のすう勢を上回るペースで人口減少、少子高齢化が進み、長期的には労働人口の減少と労働力不足による経済への影響が懸念されます。また、人口減少による過疎化地域の拡大や農林水産漁業の担い手不足による耕作放棄地の増加並びに森林及び沿岸域が適正管理がなされない状況などが生じ環境への悪影響も懸念されます。



2 土地利用

2016 年（平成 28 年）の土地利用状況は、森林が 72.4%、次いで農用地が 12.8%などとなっています。1995 年（平成 7 年）以降、利用区分の構成に大きな変化はありませんが、農用地が減少している状況です。

土地利用状況の推移

	平成7年		平成17年		平成21年		平成25年		平成28年	
	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)
農用地	1,624	14.0	1,562	13.5	1,550	13.3	1,497	12.9	1,490	12.8
農地	1,580	13.6	1,521	13.1	1,509	13.0	1,497	12.9	1,490	12.8
採草放牧地	44	0.4	41	0.4	41	0.4	—	—	—	—
森林	8,399	72.3	8,383	72.2	8,440	72.5	8,371	71.9	8,421	72.4
原野	140	1.2	137	1.2	137	1.2	156	1.3	153	1.3
水面・河川・水路	396	3.4	403	3.5	405	3.5	410	3.5	418	3.6
道路	294	2.5	330	2.8	342	2.9	342	2.9	345	3.0
宅地	262	2.3	287	2.5	295	2.5	297	2.6	295	2.5
住宅地	166	1.4	178	1.5	181	1.6	181	1.6	180	1.5
工業用地	17	0.1	15	0.1	16	0.1	15	0.1	15	0.1
その他宅地	79	0.7	94	0.8	98	0.8	101	0.9	100	0.9
その他	497	4.3	510	4.4	467	4.0	563	4.8	515	4.4
総面積	11,612	100.0	11,612	100.0	11,636	100.0	11,636	100.0	11,637	100.0

※構成比（％）は、端数処理の関係で各項目の和とは一致しない場合がある。

資料：土地利用現況把握調査 秋田県建設部

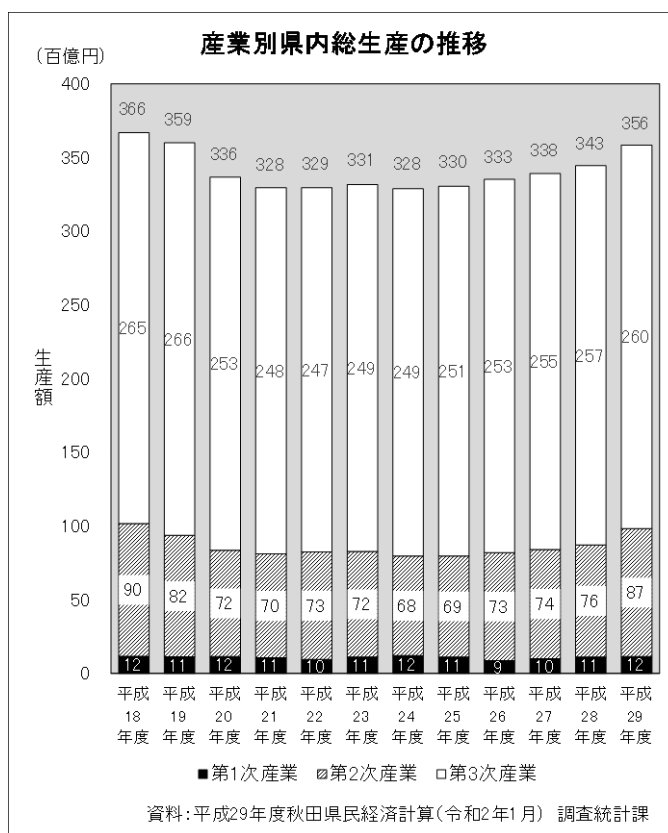
3 経済・産業

（１）産業構造

2017 年度（平成 29 年度）の県内総生産は 356 百億円となっています。また、産業別内訳は、第 1 次産業が 3.2%、第 2 次産業が 24.2%、第 3 次産業が 72.4%となっています。

第 1 次産業は、ほぼ横ばいとなっています。

第 2 次産業及び第 3 次産業は、2008 年度（平成 20 年度）以降リーマンショックの影響もあり、生産額は減少傾向にありましたが、2013 年度（平成 25 年度）からは回復傾向がみられています。



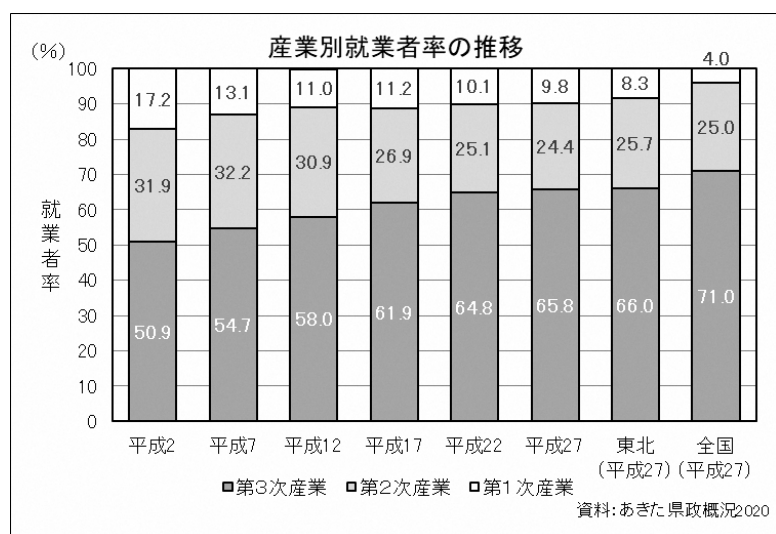
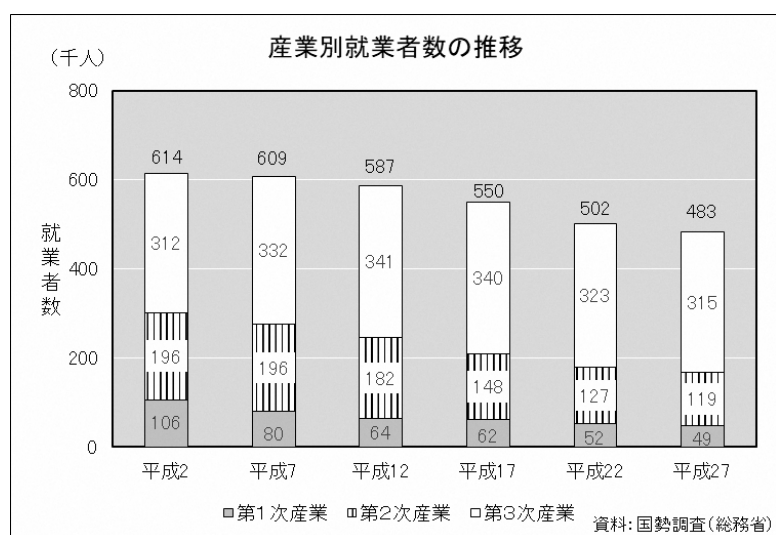
※県内総生産額は端数処理の関係で各項目の和とは一致しない場合がある。

(2) 就業者数

2015 年（平成 27 年）の就業者数は、483 千人と県内総人口の 47.6%となっています。

また、就業者数の推移は減少傾向にあり、2000 年（平成 12 年）からは全ての産業で減少しています。

産業別就業者数の割合は、農業人口が大部分を占める第一次産業が 9.8%と全国（4.0%）に比べ大きな割合を占めています。



4 水利用

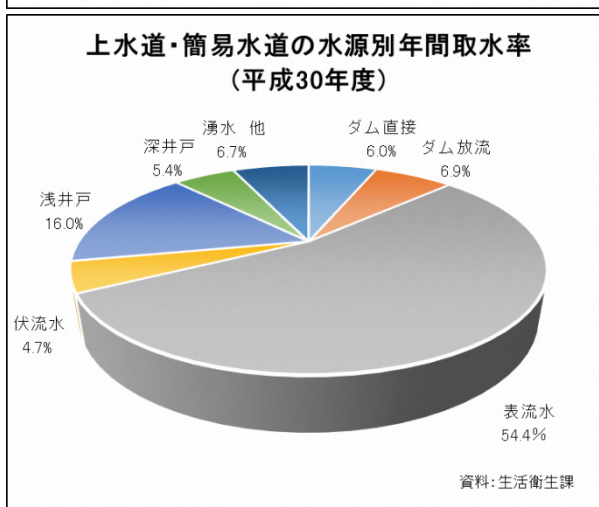
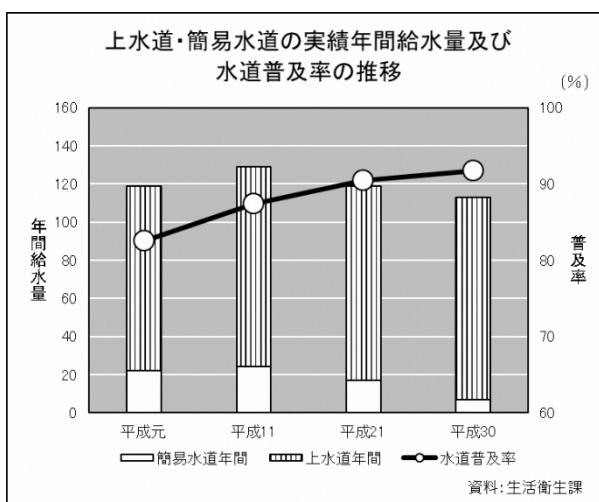
県内の水利用として、2018 年度（平成 30 年度）の上水道・簡易水道の実績年間給水量は 105,942 千 m^3 となっており、1999 年（平成 11 年）頃をピークに減少傾向となっています。

水道普及率は 91.7%と年々上昇傾向にありますが、全国（98.0%）に比べて低くなっています。普及率が低い地域では、地下水や湧水に恵まれ、井戸等への依存傾向が強く見受けられます。

上水道・簡易水道の年間取水量は 129,658 千 m^3 であり、水源別では表流水が 54.4%、次いで浅井戸 16.0%、ダム放流 6.9%、湧水他 6.7% などとなっています。

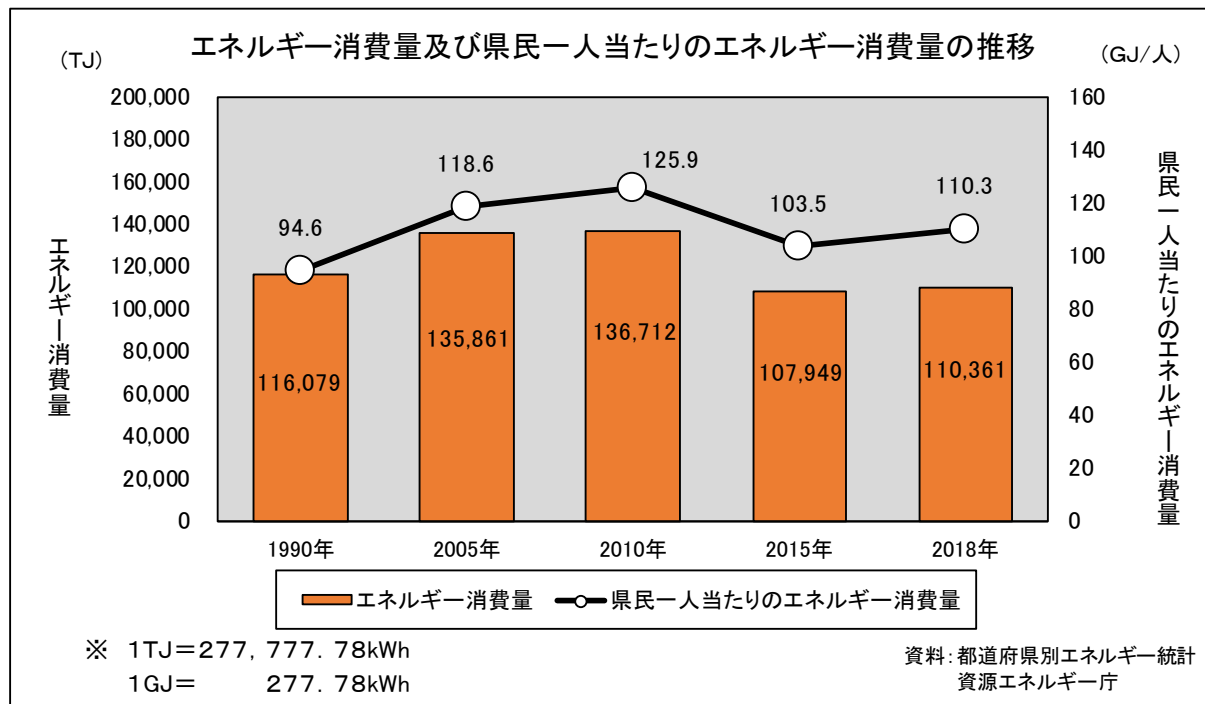
上水道の年間給水量（有収水量）は 87,340 千 m^3 であり、用途別では生活用が多くなっており、次いで業務用・営業用、工場用などで、日常生活における利用が大部分を占めています。

また、秋田工業用水事業では、2018 年度（平成 30 年度）に 1 日当り 157 千 m^3 の工業用水を秋田市の秋田湾区域（飯島・向浜地区）、御所野地区へ供給しています。



5 エネルギー

2018年度（平成30年度）の県内のエネルギー消費量は、110,361 テラジュール（TJ）であり、県民一人当たりのエネルギー消費量は110.3 ギガジュール（GJ）であり、2015年度（平成27年度）と比較して、県内のエネルギー消費量及び県民一人当たりのエネルギー消費量ともに増加傾向にあります。



2018年（平成30年）に策定した「第2次秋田県地球温暖化対策推進計画」に基づき進めている新エネルギー*の導入状況をみると、設備容量では風力発電が最も多く、次いで水力発電、太陽光発電が多く導入されています。また、バイオマス熱利用も進められています。

